

# OMM JAPAN 2020 テクニカルディレクターレポート

7回目を迎えた OMM JAPAN は野沢温泉村と栄村を舞台に繰り広げられました。2020 年は新型コロナウイルスの流行によりイギリスの OMM や国内の多くのスポーツイベント・アウトドアイベントが中止・縮小するなかで本イベントを無事に開催でき、また本イベントに起因したクラスター感染などは確認されておらず、ほっと胸をなでおろしています。これもひとえに開催にご理解いただいた地元の関係各位、感染予防を取っていただいた参加者、スタッフのみなさまのおかげです。

そしてイベントの本質である競技の部分でも大きな事故なくイベントを終えることができました。前任者よりテクニカルディレクターを引き継ぎ、また他の部門でも担当者交代があったなかでスムーズな運営ができるのか、それに加えてこのコロナ禍ということにあってもいろいろ不安はありましたが、これまで通りの OMM JAPAN らしい舞台を作り上げることを目標に準備してきました。そしてそれをなんとか達成できたことを心から嬉しく思います。あらためてご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

以下、今後のためにテクニカルディレクターレポートを記しておきます。

## トレインならびにコース設定の経緯

実はコロナ禍が本格化する前まで、他の候補地での開催を念頭に準備をしてきたのだが、コロナとは無関係の事情により開催地変更を余儀なくされた。そこで急ぎよ候補地に挙げたのが 2021 年の開催地として検討していたスタカ湖周辺のトレインであった。私が以前訪れたことがある経験から候補地の 1 つに挙げていて、いくつかのエリアは OMM に使えることはわかっていたが全域にわたって下調べをしてから開催を決定する余地がなく、どのくらい OMM JAPAN のトレインとして利用できるかどうかは本調査を試みないと分からない状況であった。この時点でイベントセンターとキャンプ地は決め打ちしており、また栄村側の北東斜面をメイントレインにする構想であった。

緊急事態宣言空けの 6 月以降、安全管理チームの宮内佐季子氏とコースプランナーの谷川友太氏とトレイン調査を行った。かなりのヤブでルート自由度が高くないことは数日のうちにわかった。しかしだからといってここから他の開催地に変更することはできないので、このトレインで OMM JAPAN らしいコースを用意することを検討した。

ヤブのなかを延々進まない到達できないコントロールばかりではナビゲーションの難易度が上がってしまう。基本的には尾根や谷の中にある林道や作業道、踏み跡などを利用して移動することで距離と登りを稼ぎ体力的要素を問うことにした。一方で何個かのコントロールではやぶを通過しながら細かな地形へのアタックを要求し、ナビゲーション要素も問うこととした。キャンプ地は整備されたキャンプ場を利用することがなかったが、標高や緯度を考えればそれだけで十分野営スキルを問うことはできるだろう。むしろ積雪や降雪があるとかなり過酷な環境になることが不安の種であった。

7 月までに地図調査は終わり、8 月にコース設定、9 月に試走やコース整備を行った。10 月に最終調整をして 10 月中旬にはコース決定、イベント 2 週間前には地図印刷に出すことができ、コースの準備は順調であった。

こういった経緯もあり、今回はかなりヤブのきついタフなトレインでコースを提供することになった。結果的には今回のようなトレインでも OMM のコースを提供し、挑戦してもらえると学べたので開催地のバリエーションの 1 つに加えることはできるだろう。

## 競技を振り返って

昨年からの改善点や今回の競技中に起きたトラブル等に触れ、今後の課題を挙げておきたい。

### スタート位置の改善

昨年までの課題に基づきスタート地区やスタートフラッグの位置を参加者が混乱しない導線になるよう心掛けた。実際スムーズな流れで競技に入ってもらうことができた。

### SI チップの装着

SI チップの取り付けや補強を参加者自身でより自由にできるようにしたことで脱落は1件も起きなかった。ただし SI をぶつけての破損は4件ほど起きており、うち1件はチップ部分が紛失したことで記録が残らない事態となった。物理的な衝撃には対応できる限界があるので、今後はプログラム等を通じてより安全な装着方法を案内していきたい。

### 位置説明の誤表記

DM のコントロール位置説明が「ピークの東」であるべきところ「ピークの西」となっていた。地図上のコントロール位置は正しい場所になっている。対応するクラス（1日目 Score Medium、2日目 Straight E、Straight A）では地図配布時に掲示にて表記が違うことを知らせた。結果的には大きな混乱は生じなかったとみているが、今後はより一層の事前チェックを徹底していきたい。

### GNSS（GPS）デバイスの携帯義務

今回の山域周辺で昨年行方不明者が発生したことから地元機関の要請もあって GNSS デバイスの携帯を義務付け、緊急時の利用を認めることとした。このルールを利用した直接的な搜索活動は行われなかったが、今後も安全を確保しイベントを継続していく上で本ルールは必要ではないかと考える。ただし現在のままでは競技中に現在地を知るために意図的に利用することを防げないため、封印を義務付けるなどルール追加を考慮すべきと認識している。

### スタートリストの掲示とチェイシングスタート時刻の周知

今年から両日のスタート地区ならびにキャンプ地にスタートリストを掲示することにした。時間管理はルール理解や装備確認、体調管理と同様、OMM の重要な要素ではあるが、細かな時刻を指定していることから OMM が問う本質的な部分ではないと判断して変更した。

また昨年同様、1日目ストレートクラス上位チームの2日目スタートはチェイシングスタート形式(1日目成績の良い順からスタートしていく)としスタート時刻を指定した。キャンプ地と2日目スタート地区にはチェイシング対象チームの新しいスタート時刻も掲出したが、チェイシング対象チームが新しいスタートリストを見ずに遅刻してスタートすることが数件あった(なお指定された時刻に遅れると遅れた時間も競技時間に含まれる)。昨年から導入した本ルールの周知が十分行われていないので、今後はプログラム上での表記や現地の掲示内容を見直し、より周知できるよう図りたい。

### 1日目と2日目のコースバランスについて

通常、Straight では1日目より2日目のほうが短くなるように設定しているが、今回は2日目の方が長く

なる傾向があった。コースプランナーの想定では従来の設定通りになる見込みであったが、1日目は想定が甘い設定となっており、一方、2日目はベストルートやコントロール発見の両面でナビゲーション上の難易度が高く、思惑通りにならなかった。2日目がタフになることは安全管理上も問題につながる可能性が高いので、今後はより適切なコースプランを行いたい。詳しくはコースプランナーレポートを参照されたい。

### 積雪への対応

イベント3日前にキャンプ地周辺で積雪が20cmほどあった。イベント当日までの気温は高めに推移する予報であったので可能性は低かったがイベント当日まで雪が残る可能性があり、加えて土曜日は雨予報。雪にはならない予報であったが、イベントディレクターや安全管理マネージャーと対応を協議し、最悪1日目で競技を中止することも想定した。幸いにしてそのような事態にはならなかったが、今後も様々な事態に対応できる準備を進めていくことを主催者一同、肝に銘じておきたい。

テクニカルディレクター  
小泉 成行